

埼玉県大里郡川本町

しも おお つか

# 下大塚遺跡（2次調査）

か しま  
鹿島76号古墳地下レーダー探査

町内遺跡発掘調査の成果



下大塚遺跡2次調査区全景



鹿島76号古墳（北西から）



レーダー探査風景

2005

川本町教育委員会

- 本書は川本町教育委員会が国庫補助事業で行った平成16年度の埋蔵文化財保護事業の報告書である。
- 本書の編集は川本町教育委員会松葉が行った。
- 本報告書の下大塚遺跡2次調査区は、埼玉県大里郡大字本田字下大塚3610番地に所在する。発掘調査の原因是堆肥合併設置で、調査は川本町教育委員会が実施した。発掘調査が平成16年1月7日~1月11日、整理作業が平成17年1月6日から3月31日までである。発掘は村松選手相当し、発掘調査から本書の作成に至るまで、小林正、大沢利夫、大木良子、笠原淑江、中川康子、畠田貞氏の協力を受けた。
- 本報告書の鹿島7号古墳は埼玉県大里郡川本町大字本田字鹿島210-1番地に所在する。地下レーダー探査は川本町教育委員会が、応用地質株式会社に委託した。現地調査は平成17年2月9日に実施した。本報告をまとめにあたり、応用地質株式会社高瀬尚人氏の協力を受けた。

## 1. 平成16年度の埋蔵文化財保護事業

川本町では、各種開発に伴う試掘調査と個人住宅建設、農業関連事業、遺跡確認調査を国庫補助事業で行っている。平成16年度は7件の開発に伴う試掘調査と農業関連事業に伴う発掘調査、遺跡確認のために鹿島7号古墳の地下レーダー探査を行った。また、一部事業に関しては工事立会い(3件)を行った。

川本町は、北は深谷市、西は寄居・花園町、南は比企郡嵐山町、東は熊谷市・江南町と境を接している。町の中央をほぼ東西方向に荒川が横断しており、北は櫛塗台地、南側に江南台地が広がり、本遺跡は荒川の支流の吉野川左岸の江南台地上に立地している。平成18年1月1日をもって「深谷市」と合併する予定である。



平成16年度試掘調査一覧表

試掘コード	道路(No.)	試掘日	対象地	地番	事業内容	対象面積	発掘面積開拓率	所見	取り扱い
2004_001	環濠古墳群(011)	2004.08.25	島山字楠松	1102-1	住宅建設	320	4村松 道路なし		
2004_002	鹿島遺跡(134)	2004.09.07~09.09	本田字平方裏	2525-2526-1	下水処理場	1406	300村松 道路物あり	発掘調査	
2004_003	鹿島遺跡(134)	2004.09.16	本田字平方裏	—	道路整備	480	150村松 道路なし		
2004_004	下大塚遺跡(019)	2004.10.07	本田字下大塚	3609-3610-1	堆肥合併設置	2193	100村松 道路物確認	発掘調査	
2004_005	島山遺跡(119)	2004.10.12	島山字八幡	488-1	記念碑建立	10	10村松 道路なし		
2004_006	島山遺跡(134)	2004.11.18	本田字台	2251-3	住宅建設	500	81村松 道路なし		
2004_007	道跡南外(111)	2004.11.25	由字中里中	1879	調整池造成	—	—	村松 道路なし	立会
2004_008	由本田遺跡(013)	2004.12.14	本田字上本田	4893	老人ホーム建設	900	126村松 道路なし		
2004_009	箱崎古墳群(008)	2005.01.12	島山字株木	—	配水管理設	—	—	村松 墓碑片が出土	立会
2004_010	由田島遺跡(152)	2005.02.25~03.01	島山字田島	—	配水管理設	—	—	村松 道路なし	立会

## 2. 鹿島76号古墳

### I 調査にいたる経過

川本町では、埼玉県指定史跡鹿島古墳群の整備活用事業を平成4年から継続的に進めている。平成16年3月に実施した古墳復元の基礎資料を得るために鹿島73号古墳の発掘調査では、胴張形横穴式石室から小刀、鉄鏃、人骨などが出土し、多くの成果をあげることができた。発掘調査の最大の成果としては墳頂に方形に並べられた裾石から鹿島古墳群初の方墳であることが判明した。これまでには墳丘が変形している古墳は、円墳が耕作などで変形したものと推定していた。このことにより方形を呈するものは方墳の可能性があり、あらためて周辺の古墳を注意して観察したところ、隣接する76号古墳は、形状が方形で、他の古墳に比べて頂部が平坦であることがわかった。辺の向きも73号古墳と同じで、方墳の可能性を考えられるようになってしまった。そこで今後の調査計画の基礎資料とするため、本年度は地下レーダー探査を行うこととした。

### II 遺跡の周辺

本遺跡は荒川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡は緩やかに南東に向かい傾斜し、遺跡は標高60m付近に位置する。鹿島古墳群は7世紀代を中心に築造された100基を越す大群集墳であったと考えられ、これまでに30基の古墳が発掘調査されている。調査された古墳は、1基の方墳(73号古墳)を除き、円墳である。石室は河原石積みの胴張形横穴式石室で統一されている。今回調査した76号古墳は、古墳群中では東より、帶状に東西に広がる古墳群の南端に位置している。

### III 古墳の現状と地下レーダー探査の結果

76号古墳は、一辺17mほどの正方形を呈している。墳丘の高さは1.5mほどで、上面は8m四方の範囲が平坦で、古墳全体の形状は台形を呈している。特に南西コーナーが角を持ち、西辺および南辺は直線的である。古墳の南側は傾斜地となっており、南側から見ると高台に位置する古墳は、2m以上の高さがあるよう見える。南西コーナーには河原礫が集積していて、表面に露出している。

地下レーダー探査にあたっては、①墳丘構造の概要、②石室の位置および形状、③裾石・周溝の有無および墳丘の形状を把握することを目的に、墳丘の軸にあわせた20m四方のグリッドを設定し、墳頂部で0.5m方眼、周辺で1m方眼の側線で、総延長69.4mを行った。その結果を略記する。

墳丘構造の概要 墳丘の中心南北には強い反射体を示す部分が認められ、石室と推定される。それ以外にも、反射体を示すところが認められ、部分的な疊層または葺き石などの可能性が考えられる。また封土には、反射体を示す部分は見られず、版築などの墳丘築成に関するような情報は検出できなかった。また墳丘の墳頂部分に地表面近くから局所的な反射体が連続して直線的に認められ、周囲を取り囲む裾石の可能性が考えられる。墳丘裾の平坦面には強い反射を示す個所が見られ、地山の疊層が地下約0.8mに存在することが推定される。

石室の位置および形状 墳丘の南よりから強い反射体が幅1mで環状に見られ、石室の側壁であると推定される。規模が玄室内の内寸が約3m×2mで南西側に羨道を備えた横穴式石室と推定される。羨道の西側は反射体がなく確認されないがおおむね南西方向に開口すると推定され、その主軸は墳丘の軸と異なっている。天井石と考えられるような弊遮する反射体は得られず、天井石がそのまま残る可能性は少ない。石室内側にも強い反射体は検出されず、73号古墳のような側壁が内部に崩落したような様子はうかがえない。ただし石室の深さは墳頂部から1.2mの深さであり、側壁上部は一部除去されたことが推定される。石室の東に側壁よりも強い反射体が確認されており、除去した天井石の一部が遺存することも考えられる。タイムスライスの結果で見ると東側壁は直線的で西側壁はいくらか弯曲する様子が見られる。鹿島古墳群特有の胴張形横穴式石室の可能性を有している。

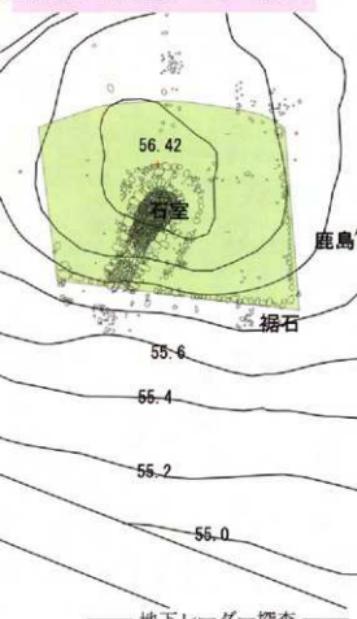
裾石・周溝の有無および墳丘の形状 また墳丘の裾部の地表下から径30cm以下の石材と考えられる局所的な反射体が連続して認められる。この反射体をつなぐと1辺が1.5m前後の方形を呈する。墳丘の西側と北側の反射体は直線的に認められるが、東側・南側には反射体は部分的にしか確認されていない。やや幅があり複数の疊の存在が推定される部分もあり、周囲を取り囲む裾石の可能性が考えられる。墳丘の周囲には、雁み状の反射面は検出されず、周溝の存在は確認できなかった。墳丘から南側に3m離れて一部雁み状の部分が見られ、内部に強い反射体が見られるが古墳に伴うものとは判断しない。

### IVまとめ

今回の地下レーダー探査の結果からは以下の点が推定される。墳丘は、版築や全面に葺き石が置かれるような状況は確認されていない。墳頂の裾石は方形にめぐり、一辺1.5mの方墳の可能性を示唆している。石室の天井石が除去されていることなどから、上面の平坦面は後世の削平によって形成された可能性がでてきた。石室は胴張形横穴式石室の可能性があり、天井石は除去されるが、側壁は内部に崩れていないようである。南西に開口している石室の軸は墳丘とずれており、73号古墳と同方向を指している。76号古墳は方墳との確証を得ることは出来なかったが、73号古墳と類似した傾向を把握することが出来た。

地下レーダー探査の成果として、横穴式石室の方向、周溝の有無などが推測でき、発掘調査の事前に遺構面の深度・範囲などが把握できることが上げられ、今後の調査時の基礎データとなるものと考えられる。今後は鹿島古墳群全体の探査を行い、保存計画の基礎資料とされることが望まれる。

# 鹿島76号古墳レーダー探査



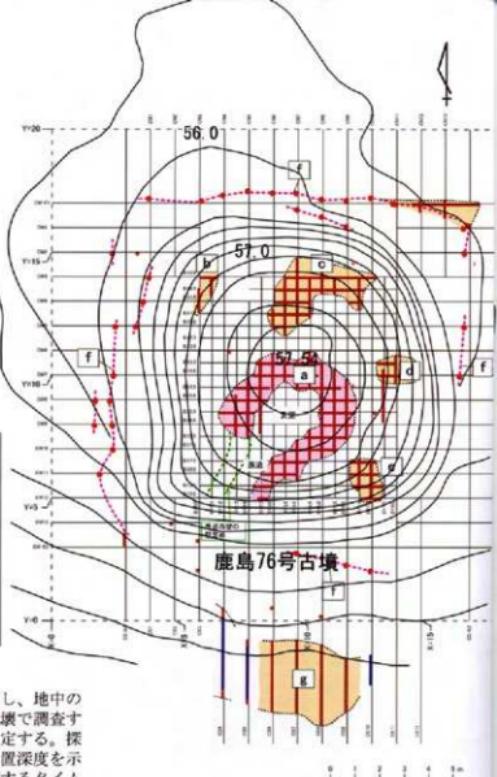
**凡例**

【探査記録】

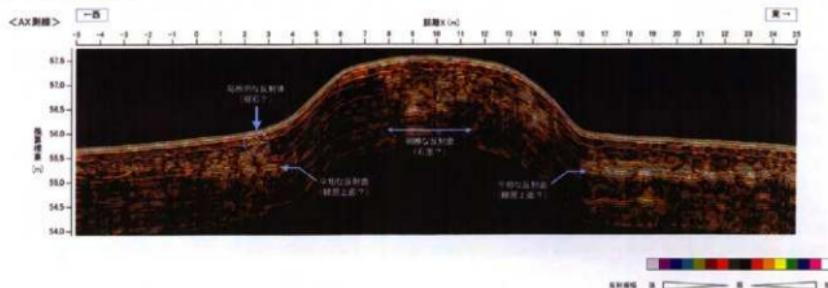
- 赤線：明瞭な反射面
- 青線：ぼんやりした反射面
- ：局所的な反射体

【構造等推定範囲】

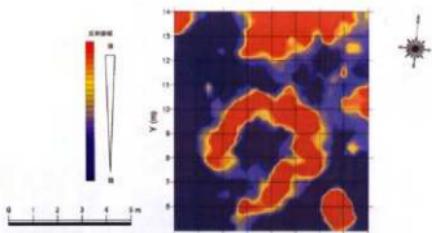
- ：石室（主石室、奥室）
- ：壁等の集中反射面、近現代の埋乱石、など
- ：石
- - -：石の連続する位置



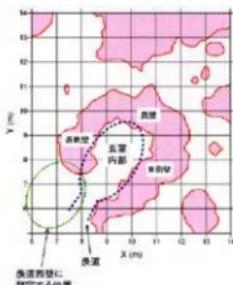
地表を走査するアンテナから地中に向けて電磁パルス波を放射し、地中の「反射体」からの反射波を捉えることにより、地中の状況を非破壊で調査する物理探査手法である。反射の大きさなどから対象物の性格を推定する。探査の結果を表現する方法として断面図のように反射パターンの位置・深度を示すプロファイル測定記録と客観的な平面図分布を深度ごとに作成するタイムスライス解析がある。



(d) 全深度のタイムスライス経量: 0.2m~1.2m



解釈図



### 3. 下大塚遺跡第2次調査

#### I 発掘調査にいたる経過

川本町では、約30軒の酪農農家があり町の主幹産業となっている。川本町本田字下大塚地内で平成6年9月に建設した牛舎建設（第1次調査地）の東に新たに堆肥舎を計画するとの協議があった。町教育委員会は事業者に、予定地内が周知の埋蔵文化財包蔵地（川本町NO.019、下大塚遺跡）であり、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると連絡した。そこで、試掘調査を実施した後に協議することとし、10月7日に実施した。その結果1次調査時と同様に南の斜面地からは遺構遺物は検出されず、平坦面から縄文土器の包含層が確認された。そこで北側の調査区を引き続き拡張して遺構遺物の検出につとめたところ、3点の遺物の分布が確認された。そこで国庫補助事業として発掘調査することとし、その日のうちに遺物の出土地点を記録した。調査面積は1000m<sup>2</sup>、発掘届は平成16年1月9日付け教文3-624号である。整理作業は平成16年度中に行い、報告書を刊行した。

#### II 周辺の遺跡

本遺跡は荒川の支流の吉野川左岸の江南台地上に立地している。遺跡は緩やかに南東に向かい傾斜し、遺跡は標高70m付近に位置する。

遺跡の周辺には、縄文時代の遺跡が多く分布する。同一の台地上に立地する上本田遺跡からは縄文中期の住居跡が70軒以上発見され、草創期の有舌尖頭器も採集されている。吉野川を挟んだ対岸に位置する春日丘工業団地内には、旧石器時代終末期の北方系細石刃を出土した白草遺跡が位置しており、現在までに確認された川本町最古の遺跡として知られている。また、四反歩遺跡からは縄文早期前半の住居7軒からなる集落遺跡が発掘調査され、吉野川流域の江南台地北縁部には縄文時代早期の遺跡が比較的多く見られる。

下大塚遺跡では、平成7年に行われた下大塚遺跡の1次調査では、撫糸文期の包含層が検出され、1302点の遺物が出土している。今回の調査区は東に30mの距離に位置している。

#### III 遺構と遺物

調査区は南側の急な斜面と北側の東西方向の浅い谷に挟まれた東向きに緩やかに傾斜する馬ノ背状台地に立地し、南斜面上半の台地頂部に位置する。遺跡の基本層序は、I層は表土層（30cm）、II層が茶褐色層で、本層の下部からIII層のソフトローム層にかけて遺物は包含される。IV層は粘土化した軟質のローム層であり、傾斜地の下位ではIII層の堆積が見られなかった。本調査で検出した遺構は、遺物包含層などから縄文土器26点、石器1点、礫6点のあわせて33点が出土した。

#### 1. 遺物の分布状態（第3～5図）

出土遺物の分布を見てみると密度の濃淡は区分できないが、調査区周辺に行くにしたがい分布が薄くなり、特に斜面下位と上部の分布は希薄で、まばらとなる。また遺物の垂直分布も地形に沿って緩やかに傾斜し、上下幅もあまりなく出土する。また石器・礫も土器の分布同様に集中することなく散漫に分布しており、遺物の接合関係は土器・石器に限らず見られなかった。

#### 2. 土器

包含層から出土した縄文土器は26点で、すべて早期前半の撫糸文系土器である。撫糸が施されたもの4点、無文のもの21点、沈線施文のあるもの1点に分けられる。小破片が多く、接合するものや、器形がうかがえるものは出土していない。

撫糸文が施されるものは口縁部が肥厚するものと角頭気味になるものがある。01は口縁下に無文部を有し、以下Rの撫糸が施される。02は角頭気味を呈し口縁下に粗いRの撫糸を施す。05は波状の口縁下に沈線文が施されるもので、内面に指頭によるナデを行う。

無文のものは肥厚するもの、内湾するものに分けられる。03・04は肥厚するもので口縁が外反し、器面がよく磨かれている。04は直立して立ち上がる。06は器面が薄く、口縁は内湾する。

土器の胎土は、白色粒を多量に含む焼成良好なものが多いが、08や15は片岩を多量含み、26は石英粒を多量含むものが見られる。

#### 3. 石器

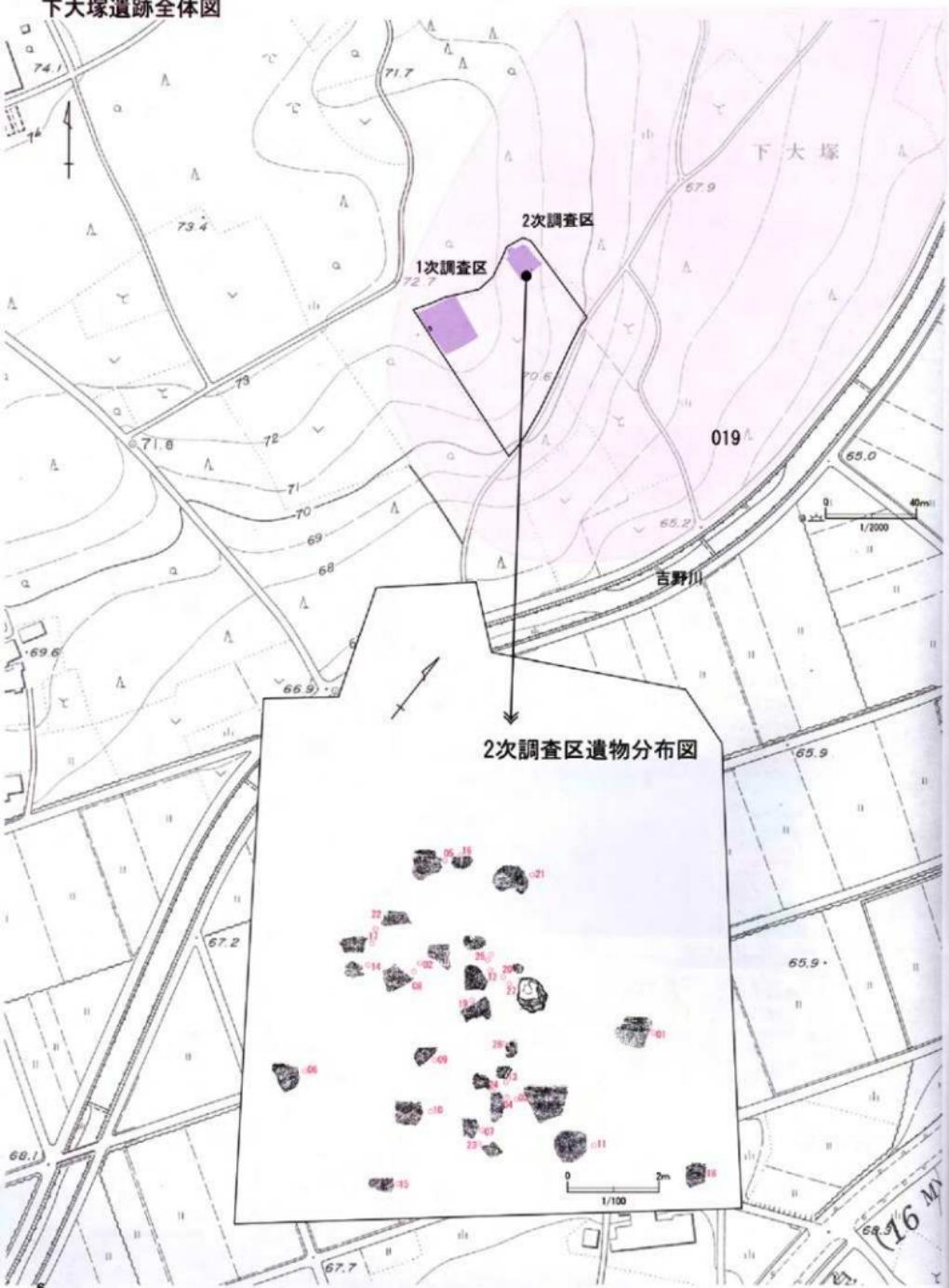
石器は礫器1点で、このほかチャート製の剥片等が出土している。27の礫器は片刃のもので1/2の残存である。礫は6点出土するが被熱されたものは見られない。

#### IV まとめ

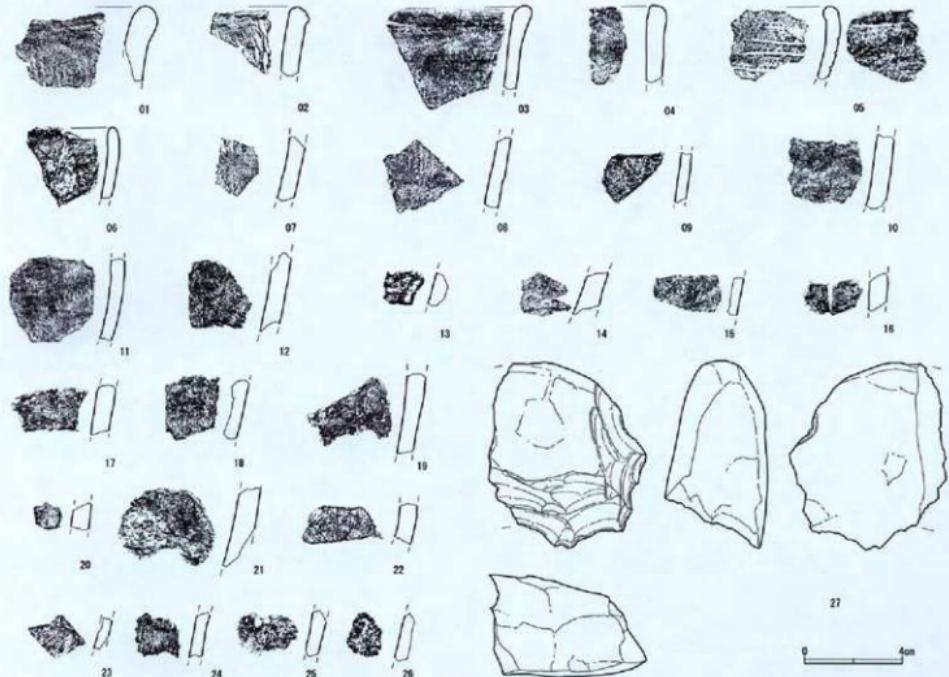
今回検出された遺物は、早期前半の土器群が主体である。1次調査区の東側30mに離れて位置しており、遺物の分布密度は薄く、周辺地域に当たるものと推定される。東側は谷に向かい傾斜しているよう、早期前半の遺物群の分布の東限を示すものと考えられる。

参考文献 1996 「下大塚遺跡発掘調査報告書」川本町教育委員会

# 下大塚遺跡全体図



下大塚遺跡出土遺物



0 4cm



0 4cm

## 下大塚遺跡 2 次調査遺物観察表

遺物No	遺物時代	遺物細別	出土位置	遺存状況	説明	色調	焼成	胎土
01	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	肥厚する口縁下を無文とし以下Rの撫糸	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
02	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	肥厚する口縁下に大粒のRの撫糸	黄褐色	良	石英・白色粒を含む
03	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	肥厚する口縁、無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
04	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	肥厚する口縁、無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
05	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	内面が強り出す波状口縁を呈し、やや内溝する。外面に横方向の枕線を施す	茶褐色	良	白色粒を含む
06	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	口縁部	無文、口縁はやや内溝する	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
07	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	胸部	Rの撫糸	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
08	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	胸部	Rの撫糸	白茶褐色	良	石英・片岩を含む
09	縄文時代早期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
10	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
11	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
12	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文、表面剥落	茶褐色	良	白色粒を含む
13	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	白茶褐色	良	石英・白色粒を含む
14	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文、裏面剥落	白茶褐色	良	石英・白色粒を含む
15	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・片岩を含む
16	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
17	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
18	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・輝石・白色粒を含む
19	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	輝石を含む
20	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・輝石・白色粒を含む
21	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	白茶褐色	良	石英・白色粒を含む
22	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	白色粒を含む
23	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英を含む
24	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英・白色粒を含む
25	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英を多量含む
26	縄文時代中期	撫系文土器	包含層	胸部	無文	茶褐色	良	石英を多量含む
27	縄文時代中期	礪器	包含層	1/2残存	円錐の一端を粗く加工する。7.5×6.4×4.2cm, 205g	—	—	ホルンフェルス



全景（北から）



遺物分布状態

### 報告書抄録

フリガナ	シモオオツカイセキ・カシマ76ゴウコフン				
書名	下大塚遺跡・鹿島76号古墳				
副書名					
シリーズ	川本町発掘調査報告書				
編著者	村松 篤				
編集機関	川本町教育委員会				
所在地	〒369-1104 埼玉県大里郡川本町大字菅沼1019 川本町出土文化財管理センター				
発行日	2005年3月29日				
所取遺跡	所在地 コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
下大塚遺跡	川本町木田 11406019	36° 07' 04" 139° 18' 30"	16.10.07	300m <sup>2</sup>	堆肥含混設
鹿島76号古墳	川本町木田 114060688	36° 07' 09" 139° 18' 70"	17.02.09	400m <sup>2</sup>	遺跡確認
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下大塚遺跡	集落	縄文早期	包含層	土器(早期)・石器	縄文早期の包含層
	概要	2次調査で1次調査区の東30mに位置する。縄文時代早期前半の撫糸文期の集落遺跡で、包含層の南東部の調査にあたる。			
鹿島76号古墳	古墳	古墳後期	石室・礪石	地下レーダー探査による調査	
	概要	地下レーダー探査を実施した。その結果から推定されるのは石室は胴張形横穴式石室で、埴輪の軸は直線的で一辺15mの方墳の可能性を示唆している。主軸は73号古墳と同方向を向き、埴輪と石室の軸がずれるのは73号古墳と同様である。石室の天井石はすでに除去され、側壁は遺存する事が確認された。墳丘周辺の探査では、周溝は確認されない。			

### 下大塚遺跡・鹿島76号古墳

平成17年3月29日

編集発行 川本町教育委員会

印 刷 凸版印刷株式会社